



保健 保健福祉課からのお知らせ

問 保健福祉課 健康増進係
☎476-1111(131)

◆認知症シリーズ 23

『こんなとき、どのように対応すればいいですか？』



『財布がない。あんたが盗ったな！』と言われ、とてもショックです。

『物盗られ妄想』といわれる症状です。
多くの場合、一番身近にいる人が疑われます。



認知症の人の気持ち

- 財布を置いた場所を忘れるはずがない！
- 誰かが盗んだに違いない！



原因

- 記憶障害により置いた場所がわからない。
- 自分の物と他人の物の区別がつかない。
- 薬の副作用。

○ 望ましい対応と言葉

- まずは本人の訴えを聞き、否定しない。
- 一緒に探す。普段からしまう場所を確認しておき、それとなく本人が見つけれられるようにする。(家族が見つけない)
- 頃合いをみて気分転換(休憩)に誘う。
- 頻繁に起こると精神的に負担が大きくなるが、本人を突き放さないよう、毎日少しずつでも関わる。
- 介護する側の発想の転換と気分転換が大事。

× 悪い対応と言葉

- 『私が盗むわけないでしょう！』
- 『自分でなくしたんじゃないの？』
- 『ちゃんと探したの？』



まとめ！

物盗られ妄想で身近な人が疑われるのは、信用されていないからではなく、一番身近で接している安心できる存在だからこそです。『一生懸命介護しているのに・・・』と辛くなりますが、本人は物がなくなって困っているだけなのです。助けや協力を求めるサインだと受け取り、一緒に探してみましよう。

また、本人が見つけれられるように、探しやすいところに置きなおして、探しているものが見つかったら、一緒に喜びましよう。

見つからない場合は、お茶に誘うなどして、気分転換するのも1つの方法です。お茶を飲み終える頃には、探していたことを忘れていることもあるので、話をむし返さないようにすることもポイントです。